

平成 28 年度下野市乳幼児健診・育児相談等カレンダー

事業名	会場	H28・4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H29・1月	2月	3月	
健診・相談	4か月児健康診査 受付時間13時～14時15分	ゆうゆう館 対象児	26日(火) H27.12月生	31日(火) H28.1月生	28日(火) 2月生	26日(火) 3月生	30日(火) 4月生	27日(火) 5月生	25日(火) 6月生	29日(火) 7月生	27日(火) 8月生	31日(火) 9月生	28日(火) 10月生	28日(火) 11月生
	9か月児健康診査 受付時間13時～14時15分	ゆうゆう館 対象児	19日(火) H27.6月生	24日(火) 7月生	21日(火) 8月生	19日(火) 9月生	23日(火) 10月生	20日(火) 11月生	18日(火) 12月生	15日(火) H28.1月生	20日(火) 2月生	24日(火) 3月生	21日(火) 4月生	21日(火) 5月生
	1歳6か月児健康診査 受付時間13時～14時15分	ゆうゆう館 対象児	12日(火) H26.9月生	10日(火) 10月生	14日(火) 11月生	12日(火) 12月生	9日(火) H27.1月生	13日(火) 2月生	11日(火) 3月生	8日(火) 4月生	13日(火) 5月生	10日(火) 6月生	14日(火) 7月生	14日(火) 8月生
	3歳児健康診査 受付時間13時～14時15分	ゆうゆう館 対象児	5日(火) H25.1月生	17日(火) 2月生	7日(火) 3月生	5日(火) 4月生	2日(火) 5月生	6日(火) 6月生	4日(火) 7月生	1日(火) 8月生	6日(火) 9月生	17日(火) 10月生	7日(火) 11月生	7日(火) 12月生
	育児相談・母乳相談 受付時間 9時30分～11時 実施時間 9時30分～11時30分	ゆうゆう館	14日(木)	26日(木)	30日(木)	14日(木)	10日(水)	26日(月)	24日(月)	30日(水)	21日(水)	30日(月)	16日(木)	16日(木)
	子育て巡回相談 (心理士による巡回相談) ※各会場の実施月は○印です。 詳細は各子育て支援センターへ お問合せください。	つくし みるく ゆりかご		○			○		○		○		○	
歯科保健	フッ素塗布 対象：年中児～小学2年生			5日(日) きらら館					16日(日) ゆうゆう館				19日(日) ゆうゆう館	
	2歳児歯科検診 対象：H26.1月生～H26.12月生 受付時間：対象者に個別通知 します。	対象児							16日(日) ゆうゆう館 H26.1月～ H26.6月生				19日(日) ゆうゆう館 H26.7月～ H26.12月生	
両親学級	フレッシュママ・パパ教室 (両親学級)※要申込み [レッスン1・3]13時30分～16時 (AMコース)9時30分～11時30分 (PMコース)13時30分～15時30分	ゆうゆう館 出産予定日	13日(水)	19日(木)	16日(木)	27日(水)	24日(水)	5日(月)	26日(水)	24日(木)	1日(木)	25日(水)	22日(水)	9日(木)
			出産予定日が 平成28年7月～9月の方			出産予定日が 平成28年10月～12月の方			出産予定日が 平成29年1月～3月の方			出産予定日が 平成29年4月～6月の方		
健康づくり	ヘルシースタート教室 (健康づくり講話・離乳食講話) ※対象月になりましたら、個 別通知します。(要申込み)	ゆうゆう館 対象児		25日(水) H27年10月 11月生まれ		25日(月) H27年12月 H28年1月生まれ		15日(木) H28年2月 3月生まれ		22日(火) H28年4月 5月生まれ		27日(金) H28年6月 7月生まれ		27日(月) H28年8月 9月生まれ

暮らしのお役立ち情報

安心してご利用ください  
ジェネリック医薬品

ジェネリック医薬品は自分の薬代を減らせるだけでなく、国の医療費の削減にもつながります。ひいては保険料や税負担の減にもつながります。

「ジェネリック医薬品」について理解を深め、ぜひご利用ください。

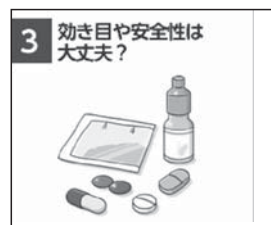


医薬品には、一般の薬局・薬店で販売されている「一般用医薬品」と、医療機関で診察を受けたときに医者から処方される「医療用医薬品」があります。さらに、「医療用医薬品には、新しく開発・販売される「先発医薬品(新薬)」と、先発医薬品の特許が切れた後に他の医薬品メーカーが同じ有効成分で製造・販売される「後発医薬品」があり、後者を「ジェネリック(generic = 一般的な)医薬品」とも言います。



先発医薬品の研究開発には、9年～17年程度の長い歳月と数百億円以上を要すると言われる莫大な投資費用が、コストとして薬の値段に反映されています。

これに比べてジェネリック医薬品の場合、既に有効性や安全性について先発医薬品で確認されていることから開発期間やコストを大幅に抑えられ、結果として薬の値段も先発医薬品と比べて3割～5割程度も安く設定することができます。



ジェネリック医薬品の開発にあたっては、医薬品メーカーにおいて様々な試験が行われており、それによって先発医薬品と効き目や安全性が同等であることが証明されたものだけが、厚生労働大臣によってジェネリック医薬品として承認されます。

また、既に販売されているジェネリック医薬品についても、信頼性の向上の観点から、都道府県などの協力を得て検査が実施され、検査結果も公表しています。さらに、品質に対する懸念を示す学会発表などに基づいて、国立医薬品食品衛生研究所を中心に試験検査を実施し、結果の概要を公表しています。効能や効果・用法・用量は基本的に変わりなく、製品によっては、先発医薬品よりも飲みやすくなるように薬の大きさや味、においの改良や、湿気や光に弱いなどの品質面の改善による保存性の向上など、よりよく工夫されたものもあります。

〔転載：政府広報オンライン [http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/iryuu/kouhatsu-iryuu/01.htm](http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/kouhatsu-iryuu/01.htm)〕